

【司会】 協会長、ありがとうございます。

ここで皆様にお願ひがあります。会場に入り切れないほど、たくさんの方々にご参加いただいております。前のほうに、少しまだお席があいておりますので、どうぞお詰め合わせの上、お一人でも多くの方がご着席ください。よろしくお願ひいたします。

それでは、お忙しい中、駆けつけていただきましたご来賓の方々から、ご挨拶をいただきたいと思ひます。それではまず初めに、両議院懇談会の顧問でいらっしやいまして、元参議院議長の江田五月参議院議員からご挨拶をお願ひいたします。（拍手）

【江田】 皆さん、こんばんは。ご紹介いただきました参議院議員の江田五月です。来賓と言われるとちょっと困るので、私も皆さんと同じに、そちらのフロアに座っていきやならん者だと思ひていますが、今日は一言、激励のご挨拶をしたいと思ひます。

今、神さんから切実なご報告がありました。今、療養所、入所者の平均年齢が80歳を超えたと。82歳と。私は今、71歳になりまして、だんだんと後期高齢者に近づいてるなと思ひておりまして、今、ハンセン病対策議員懇談会という国会議員の議員連盟、それともう一つ、ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会という、2つあるわけですが、実は、結構国会議員歴ももう長くなったのですが、両方にかかわっておりまして、今や、両方の顧問ということになっています。その最終解決を進める懇談会のほうの会長が川内さんで、川内さんは若いから、一つ、これからどうするという話は川内さんにしていただいて、私は若干年をとったので、過去のことを皆さんにちょっとだけお話ししてみたいと思ひます。

前にも話したことがあるので、その話は聞いたと言われるかもしれませんが、神さんのお話で、全療協、当時は全患協と言っていたと思ひますが、できたのが1951年だと。私は41年生まれなので、ちょうど10歳ぐらいですね。で、当時、はっきり51年か、あるいはそれよりちょっと後か覚えていないんですが、当時のことを今でも記憶をしています。私の父は江田三郎という名前です。そんな人、覚えていない、そんな人知らないという人が、この中にたくさんおられればおられるほど、うれしい。というのは、若い人がどんどんここへ参加をしてきているからだということなんですね。

ある日、私の家に、何だか真っ黒な顔をしたごつい人が、学校から帰ったら来ておりまして、この人はといたら、女性なんですね。こんなこと言うとおかしいけど、女性か男性かわからないようなすごいおばはんがおりまして、藤原道子さんだと。ご記憶の方もおられると思ひますが、参議院の、当時あった日本社会党という政党の議員で、一生懸命ハ

ンセン病のことをやっけて、そういう時代です。で、私は父に連れられまして、長島愛生園に、当時出かけたことがあります。多分、小学校の高学年か、中学へ入ってすぐか、もう国会議員が視察に行っても、なかなか中へ入れてくれない。いろんな集会なんかがあって、療養所の皆さんが集まって、そこへ来賓で行くと、前にロープが張ってあって、そのロープから向こうは行っちゃいけませんなんていうことになって、で、入るときにはクレゾール石けんで手をちゃんと消毒をして、白い服を着て入っていかなきゃならない。患者の皆さんのところに入るんじゃないんですよ、療養所に、島ですから、上陸して行くというだけでね。私の父は、私は鮮明に覚えているんですが、そんなものは要らないと。そんなロープなんか要らない。どんどん普通服のまま、患者の皆さんの中へ入って行って、そしていろんな話をしていたのを、今でも思い出します。そういう時代でした。

当時、ある社会党の若い書記の人が行って、帰ってきて、しばらくして、何か皮膚病になったんですね。「あ、私、うつったかしら」と。いや、彼女が悪いんじゃない、社会全体がそういうハンセン病の見方をしていたんですね。で、それは、なぜ社会全体がそういう見方をしていたかという、これは言わずと知れた強制隔離政策、これをずっと続けて、ハンセン病の患者を見つけたら、無理やり何でも引っ張ってきて、そして療養所に隔離するのが正しいんだということをずっと続けて、社会全体にもそのことを植えつけた、それが当時の常識だったわけです。しかし、この常識は大きく間違っていた。そしてもう皆さんご承知のとおり、熊本地裁の判決、それに対する控訴断念の要求。当時の小泉総理大臣でしたが、控訴断念して、そして保障法をつくり、さらに国会の両院の決議もあり、さらに今これからお話に出てくるであろう基本法もつくり、しかし、なかなか、長い長い歴史の中で染みついたものが超えられないと、こういう状況に今至っていると思います。

これからこれをどう超えていくのか。今日は市民集会、ほんとうにこうして入れない人が出るほど盛会になって、私もほんとうにうれしいです。告発する市民集会という、私自身が、実は告発される立場になおっていると思いつながら、しかし、ここはやはり、皆さんの告発を受けて、しっかり乗り越えていかなくちゃいけないということを痛感しております。

あまり長く来賓挨拶でしゃべってはいけませんが、そうした、私たちの歴史がつくり出したこの差別を私たちの手でなくしていく、そのために今日の集会が大きな盛り上がりを見せて、そして私どもに力を与えていただきますよう、心からお願いをして、ご挨拶といたします。皆さん、一緒に頑張りましょう。どうぞよろしくお祈りします。(拍手)

【司会】 江田先生、ありがとうございました。

それでは続きまして、ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会会長をお務め
いただいております、川内博史衆議院議員からご挨拶をお願いいたします。(拍手)

【川内】 お集まりの皆さん、こんばんは。ご紹介をいただきました、衆議院議員の川
内博史でございます。今日は各党、各会派から、皆様方を支援させていただくために、た
くさんの衆参の国会議員の仲間もこの集会に参加をさせていただいておりますが、ご指名
でございますので、代表して、私どもの決意の一端を申し述べさせていただきたいと思
います。私は、今ご紹介がございましたとおり、ハンセン病問題の最終解決を進める国会議
員懇談会の会長、第3代目の会長を務めさせていただいております。初代は、今ご挨拶を
された江田五月先生、事務局長を私がさせていただいて、2代目が藤井裕久先生、そして
事務局長を私が引き続きやり、3代目として、藤井先生が政府の要職にお入りになられた
ということで、私が会長職を引き継いでいるわけでございます。

当初、星塚敬愛園の皆さんや、あるいは菊池恵楓園の皆様方が国賠訴訟を起こされると
いうときに、星塚敬愛園にお邪魔をさせていただいて、そちらに座っていらっしゃる徳田
弁護士先生たちと一緒に、星塚敬愛園のタテヤマさんたちとお風呂に一緒に入って、国賠
訴訟を応援をしますよと、最後まで支援をし続けますからねということをお約束申し上げ
て、私たちのこの最終解決を進める国会議員懇談会というものがスタートいたしました。
国賠訴訟に勝利をし、そして控訴断念を勝ち取り、保障法ができ、基本法をつくり、そし
て先ほど神会長のほうからお話がございましたとおり、療養所の看護・介護の体制を充実
させなければならないということで、衆参両院の国会決議というものでしたわけござ
います。なかなか療養所にいらっしゃる皆様方の思いが結実した形に、いまだ成果を見
ていないという状況でございます。

これは閣議決定という政府の方針を文書にしたものがございすけれども、定員削減計
画というものも重要な政府方針でございますので、閣議決定をするわけでございますが、
この閣議決定からハンセン病療養所を除外すると。そうするとハンセン病療養所だけは定
員削減計画から外れるので、十分な看護の体制、あるいは介護の体制、あるいはスタッフ
の皆さんの体制というものがとれるようにすることができますねということで、閣議決定
からハンセン病療養所を外すべきであるということを全療協の皆さんや、あるいは原告団、
弁護団の皆様方と私どもは主張をしてきているわけでございますけれども、なかなかそこ
に、まだ立ち至っていない。今年に入って江田先生や藤井先生、それから自民党のほうの

中曽根先生、そしてカネコ先生のご努力によって官房長官にお会いをし、閣議決定から外してほしいということを通し入れをしたわけですが、その後、厚生労働大臣に全療協の皆さんや原告団の皆さんが呼ばれて、厚生労働大臣、当時、小宮山先生のほうから閣議決定から外すことはなかなか難しいが、しかし、予算の中で、定員を削減された分をさらに上回る人員の増を打ち取るようにするからねというご発言をみんなで聞いたわけですが。

しかし、ここで私たちは、私は与党の議員ですけれどもごまかされてはならないのは、厚生労働大臣が療養所の皆さんや、あるいは原告団の皆さんに、予算で定員増を打ち取るからねということを通し入れをするということは、厚生労働省の枠の中でのやりくりでやるからねということの意味するわけであって、本来は、政府全体としてハンセン病療養所の皆様方の処遇の改善、これは国の犯罪なわけですから、人権を侵害した、差別を続けたということにおける国の犯罪なわけですから、その罪を償うためには政府全体でしっかりとした対策をとらなければならない。政府全体として対策がとれる人は誰なのかというと、官房長官と総理大臣、首相官邸にいる人たちということになるわけですが。だから私たちは官房長官に当初、申し入れをしたと。

藤井先生、あるいは江田先生、そして中曽根先生は、これらの出来事を受けて、野田総理大臣に、全療協の皆さんや、あるいは原告団の皆さんと総理大臣が会うべきであるということを進言していただきました。そして野田総理大臣からは、皆さんにお会いしようというお約束をいただくことができいております。藤井先生からは、今日、くれぐれも、皆様方によろしくお伝えをしてくれという伝言を預かってまいりました。野田さんの支持率は下がってますけど、総理大臣は総理大臣ですから、総理大臣が政府全体として皆様方に面会をし、政府全体として、定員増をしっかりと実現せよと。あるいは閣議決定から除外することも検討せよという指示を出してくれれば、これは何よりも強力な政府の方針として、施策として推進をされるわけでありますから、今日この後、ハンストの決意を固められている、私もほんとうに仲よくさせていただいているシゲさんとか、ご挨拶されるようすけれども、これから寒い中にそんなことにならないよう、そんなことを皆様方に強いることのないように、我々、今日、この場に集った国会議員一同、何としても面会を実現させて、皆様方に安心して生活をしていただけるように全力を尽くすことをお誓いを申し上げさせていただきます。本集会に当たっての決意とさせていただきます。皆さん、頑張ります。よろしくお祈りします。（拍手）

【司会】 川内先生、どうも、大変ありがとうございました。江田先生、川内先生、ほんとうにお忙しい中、ありがとうございました。両先生にはここで退席をされますので、拍手でお送りしたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

それでは続きまして、ハンセン病対策議員懇談会の会長でいらっしゃいます中曽根参議院議員からメッセージが届いておりますので、代読をさせていただきます。中曽根参議院議員におかれましては、直前まで、ぜひこの集会に参加したいというお返事をいただいておりますが、急な用事で出席がかなわないということでメッセージを頂戴しております。「市民集会のご盛会を心よりお喜び申し上げます。本日はご案内をいただきながら、群馬県での急な会議のため出席できず、心よりおわび申し上げます。私が会長を務めるハンセン病対策議員懇談会は、衆議院、参議院、両院の国会議員約70名が加入する超党派の議員連盟であり、全療協とも連携をとりながら、入所者の皆様の諸問題の解決に取り組んでおります。去る8月23日に、小宮山厚生労働大臣より示された、国立ハンセン病療養所の定員についての見解が確実に実施されるよう、私ども議員懇談会もさらに努力してまいりたいと考えておりますので、皆様には引き続きましてご指導賜りますようお願い申し上げます。本日ご参集の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。ハンセン病対策議員懇談会会長、参議院議員、中曽根弘文様」。以上、メッセージを代読させていただきました。（拍手）

それでは、この会場には国会議員の方々が多数駆けつけていただいております。恐縮ですが、お名前を紹介させていただきますので、立ち上がっていただければ幸いです。それではご紹介させていただきます。自由民主党、坂本哲志衆議院議員。いらっしゃいますでしょうか。続きまして、国民の生活が第一、玉城デニー衆議院議員。（拍手）同じく、国民の生活が第一、姫井由美子参議院議員。（拍手）瑞慶覧長敏衆議院議員。（拍手）日本共産党、田村智子参議院議員。（拍手）同じく日本共産党、塩川鉄也衆議院議員。（拍手）お忙しいところ、ご参集いただきまして、大変ありがとうございました。また、衆議院議員の玉木雄一郎様からはメッセージを頂戴しておりますので、代読させていただきます。「国立療養所大島青松園を初め、全国の入所者の皆様が安心して療養生活を送れるよう、ハンセン病問題基本法の本意にのっとり、定員増員などの体制整備に全力を尽くすことをお誓い申し上げます。衆議院議員、玉木雄一郎様」。以上でございます。（拍手）